

片桐 継(かたぎり つぐ)は梅雨時も怪しい

- 片桐を知るためのキーワード(ググってBingって1ページめ)
 - SandCastle日本語版
 - マルチスレッドやまたのおろち
 - わんくまハムスター
 - 創世のカタギリオン
 - 一万件と二千件あっても動いてる～♪

- わんくま同盟 会員番号9

怪しいブログ：<http://blogs.wankuma.com/esten/>

着物たんぶら：<http://esten.tumblr.com/>



知ってると自慢？
きものムダ知識

～布編～

和服、とは

- 日本古来の服。立体裁断しない一枚の布から作り上げられたもの。
- 現在では絶対的なカースト制により格付されている



着物はこうやってできている

- 糸を作る(できたものを生糸と呼ぶ)→布にする(この布を反物と呼ぶ)→着物にする(着物を仕立てる)
- 着物は昔から完全オーダーメイドの衣服で一人一点この一着、が基本。
- 最近はプレタと呼ばれる既製品がユニクロ化。

前回までのあらすじ

- 糸のお話

- 糸には色々な種類がある

- 絹(きぬ)

- 正絹(しょうけん)と呼ばれる最高品質のJAPANESE SILK

- 紬

- 絹を作る時に出るアウトレットな繭から作る糸

- 綿

- 綿から作る糸

- 他にもウールや化学繊維などなど……

今回は布のお話です

布とは

- 糸を縦と横に組み合わせて面にしたもの
- これを12m以上で作ったものを反物という



布を作るには2つの方法

－ 先練り

- 生糸から布を織り上げる
- 布を熱湯にとおし、すぐに流水にさらして冷却
- これを繰り返して精製する

－ 後練り

- 生糸を染める
- 染まった色糸を使って織り上げる

先練りの反物

• 平織り

- 平坦な一枚のキャンバスになるもの
- 後から細かな絵を描いたり、細工をしたり、型模様スタンプしてみたり
- 反物までの手間はそうでもないが、後からの職人の手数料が半端ないので最終的には高くなる

• ちりめん

- 細かな浮き彫り模様(専門用語でシボという)があるもの
- 職人の腕が生きる反物なので、一本あたりが高価な取引となる

どちらも江戸時代を契機に生産体制・取引形態・流通手段が確立。

正絹の着物は武士階級のものに。

間に入った商人にお金持ち続出。

平成の反物も先練り

- ポリエステル反物は平織りがほとんど
 - 機械織りで大量生産
 - 反物の長さも自由自在なので、トールサイズと呼ばれる反物(13m超)も登場
 - インクジェット印刷対応で、安く作ることができる
- ちりめん風のポリエステル
 - ちりめん風に織り上げる機械も存在
 - 大手某繊維メーカーのポリエステルはシボあり
 - でも、タグがあるのですぐ判りますw

後練りの反物

- 織り上げた時点で反物となるので後は仕立てるだけ
 - 紬や綿、ウールは後練りがほとんど
 - 正絹にくらべ、後から絵柄を描いたり色を染める工程がないので安くなる
 - もともと、流通させるためのものでなく、自分の着用用として生産
 - 一般の人たちは、紬や綿を愛用していた
 - 自由度満点の地域密着型アウトレットの誕生

一反木綿は地域密着型愛され妖怪